

昭和五年二月號

工事タイムス

◇復興帝都御巡幸◇

大正十二年九月一日、人類の蒙りし最も大なる災害の一つとして、萬古に記憶さるべき大地震に見舞はれて以來、七星霜、帝都復興の大業も殆んど完成を告げ、愈々来る3月24日を期して盛大なる復興記念式典が擧げられる事となつたが、天皇陛下には復興完成せる市内を御巡幸遊ばさるゝ旨仰せ出され、此程御道筋が發表された。それに依ると、宮城より馬場先——櫻田本郷町——芝口——第一號幹線を岩本町——神保町——九段上——神保町——水道橋——壹岐坂——湯島五丁目——同朋町——上野を経て坂本町——言問橋——源森橋——石原町一丁目——藏前橋——淺草橋——清洲橋——黒江町——永代橋を渡つて馬場先に出、宮城に還幸あらせらるゝものである。

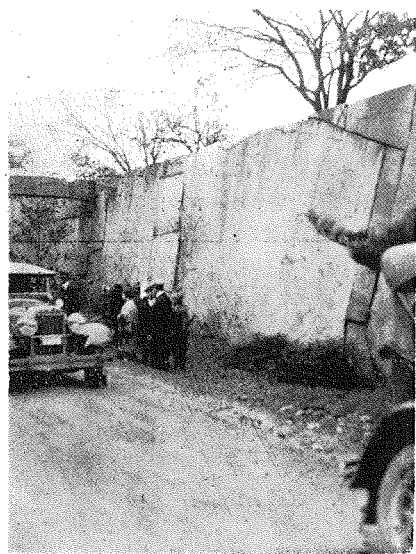
◇鐵道・隧道◇

「軌條の生命」を掲げて
齋藤博士萬國鐵道會議へ

8000哩の國有鐵道
と4000輛の機關車

72000 輛の貨客車を有するわが鐵道省は本年五月中旬二週間にわたつてスペインの马德里で開かれる第十一回萬國鐵道會議に代表者として民間から金屬研究の世界的權威本多光太郎博士の高弟大阪住友製鋼所の齋藤省三博士が囑託として參加することになつた。民間から代表者を出すといふことはこれまでにかつて見られなかつたことで、博士は同會議で「車輛の外輪對軌條の摩擦に關する研究」といふ年年交通運輸の頻繁になるにつれ壽命の短くなるレールや車輪にどんな鋼を用ひたなら最も經濟的で危険

が少ないとのすこぶる重要な論文を發表することになつてゐる。博士は去12日出帆の太平洋丸でアメリカ經由會議開催地へ向つたが、出發に先ち、レールにもいろいろ種類があり現在わが國で使つてゐるレールは炭素0.45乃至0.60が標準規格になつてゐるがそれでも早いものは東京山手線のごとき六ヶ月位、最短記録二ヶ月でもう使へなくなつてゐるのです、私の研究はもう七年になります第一期が炭素鋼で目下第二期合金鋼の研究に入つてゐるが、炭素鋼と合金鋼はいづれがよいかは従つてまだ判らない、第一期研究の結果としてレールと車輪の鋼の硬度が必ずしも同程度でなくとも車輪の方を硬くしてもレールの磨耗度には何等變りなく、軟かい方が早く減るだらうといふ從來の想像をぶち破ることになつたので舊臘關係者が——鐵道省工作局車輛課、工務局保線課、官房研究所、八幡製鐵所と住友製鋼所とで打合せ、本年から作る客貨車の車輪の外輪は全部抗張力80キログラム以上(1ミリメートル平方に對し)の硬いものにする事になつた」と語つた。尙博士はこの會議を機會に約八ヶ月の豫定で歐米各國を巡り研究所や著名工場を視察し、ベルリンの世界動力會議に



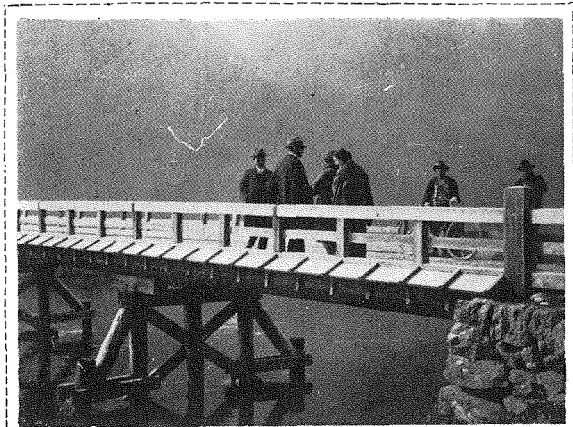
(1) 昨秋東京に開催された萬國工業會議に出席せる紐育地下鐵技師長 Robert Ridgway 氏は鐵道省の委屬に依り關門海底隧道の現場を視察されたが、寫眞は途中大阪城内見學中の博士一行。右側の石垣の巨石は有名なる蛸石である (昨年11月26日)

も出席される筈。

〽 愈々貫通したる 東洋一の清水隧道 〽
 白雪皚々の上越國境を貫く東山山脈海拔6530尺の直下に延長31831呎8時に亘る實に東洋一を誇る清水トンネルは大正11年8月最初の鶴嘴を打ち込んで以來七年餘の歲月と工費7056000圓を費やし遂に29日午後2時5分江木鐵相最後の爆破ホタンで見事に貫通し表裏日本は記念すべき此の瞬間に全く相連絡した

〽 清水隧道工事で 世界的の新發見 〽
 昨年12月末貫通した清水トンネルの工事により今般東京帝大工學部教授山口昇氏に依つて隧道の世界的研究が完成された。元來隧道では導坑に及ぼす力の研究が困難で、從來は大體に於て淺い砂地の地盤が最も工事に困難で之を含んだ場合が一番危險であると見做されて居り、非常に深い隧道は比較的危險が少いと考へられてゐたが、清水隧道工事で初めて深い隧道工事の危險に遭遇した、即ち昨年1月頃から導坑が中央部の茂倉岳直下に達し約4000尺の地下を掘り出した頃から、導坑の側壁の岩盤が剝離して最大のものば疊一枚位にも及ぶ貝殻狀の岩片が頻々と鐵砲玉の様な勢で飛び出し、その爲人夫に慘死者を出した程で山口博士は先づ地盤と同様な自重を持つた彈性體として寒天を採用、實驗を重ねた結果複雑な原因を力學的に證明し得たのであると。

〽 伊太利に於ける 鐵道電化の進況 〽
 伊國に於て最近發表した鐵道統計によると、1928年中同國鐵道で、電氣運轉によるもの、全長が1060キロメートルから1251キロメートルに増加し、其他電化



(2) 京都吐月橋見物中の博士一行(昨年11月24日)

工事進行中のもの883キロメートルで、又電氣運轉による列車と全列車との割合は10パーセントから12パーセントに増加したと。

〽 ジブラルタルの 海底鐵道愈々着工 〽
 ジブラルタル海峡を貫いてヨーロッパとアフリカを連結せんとする海底鐵道は愈々今春から工事を開始する事となり、同計畫の設計者たる侍從武官エウエノイス申佐は該工事のため、昨年末マドリッドを出發、ジブラルタル海岸へ出張したとの事であるがスペイン政府はこの工事に對し測量費、地質調査費等をも支出する事を承認した。工事はアフリカ側から始め、モロッコのアルカザル・セグイを起點として海底トンネルを開鑿する事になつてゐると。

◇ 橋 梁 ◇

〽 三重縣で東洋一の架橋計畫 〽
 三重縣では工費約280萬圓の豫定で揖斐長良川に延長1110米、幅員7米の鐵橋を架設する計畫を樹て、其設計は増田淳氏の手によつて既になつたが、該橋は三重縣と愛知縣の境界に架設されるもので實現すれば東洋最大の公道橋となるべく、工事は國庫補助210萬圓が決定次第着手される模様である。

愛知縣の木曾川架橋
 三重縣の上記揖斐長良架橋に連絡すべき木曾川架橋問題は、漸次具體化しつつある由。

徳島市の可動橋
 同市三頭に架設中の延長150呎幅員15呎の人道橋は、總徑間5連の内50呎徑間1連が可動橋となるが、此の可動橋はリンクバランス・システムと稱する新しい型式のもので、設計者は昨年芝浦に東洋一の可動橋を架設した山本卯太郎氏、リンクバランス・システムの特長は従來のものゝ約1/4の馬力で開閉出来る點で、同橋の動力は約5馬力尙此の橋は今春3月上旬竣功すると。

◇ 建 築 ◇

〽 基督教青年會館竣工 〽
 昨夏神田美土代町に100萬圓で起工した東京基督教青年會館は此程竣工、18日開館式を擧げた建物は鐵骨鐵筋混凝土現代アメリカ風の6階建て建坪1668坪、地下室は食堂理髮室法律相談所、1階は社交室、2階は講堂とクラブ室、3.4階は學校、5.6階は78室の獨身者アパー

トになつてなり屋上に禮拜堂がある。

『**東京市の復興
小學校建築**』は昭和5年末を以て全
部完成する豫定である
が、全新築校數117校の内、昭和4年末に於て
105校竣功、目下工事中のもの11校、設計中
のもの1校あるが、何れも明春までには新容
を現す筈。

◇ 公 園 ◇

『**廣瀬中佐の銅像
神田橋新公園へ**』 東京市公園課では神
田橋畔の舊神田區役
所假廳舎跡 600坪に公園を設置する事になり
近く市會に提案承認を待つて來5月中頃から
工事に着手する事になつた。此施設は外國の
諸都市に見られる所謂路傍少憩公園的のもの
で一帶に植樹し中央部に60坪の露臺を設けて少憩用
に備へ、別に藤棚小亭等も造るが外濠に面した所は
兒童遊園地として砂場、ブランコ臺を設備する計畫
又區劃整理のため行場所に迷つてゐた軍神廣瀬中佐
の銅像は此處へ移される事となつたが、豫算は1萬
5千圓であると。

『**8萬人を收容する
大野球場を建設**』 東京市では此程芝浦の埋
立地に米國大リーグ所屬
の野球場に比するも遜色のない大野球場建設の計畫
をたてた。球場の廣さは神宮球場のそれにならひ、
優に8萬人を收容し得る2階建の大スタンドを周圍
にめぐらす豫定で、市當局としては同埋立地は總坪
數18萬坪もあり乍ら土地が隔離してある爲買手がつ
かず、荒れに委せてあるので此計畫の如く中8萬坪
を野球場を含む公園としたならば約100萬圓程度の
スタンド建設費の如きは、球場の使用量、乗車券の
収入に依つて回収は極めて確實であり、且つ殘る10
萬坪賣却の爲にも有利な條件となるので、頗る有利
な計畫と見て、おそくも秋のシーズンまでには完成
すべく、近く工事に着手する豫定であると。

◇ 人 事 と 雜 録 ◇

『**宮部金吾博士
學士院會員**』 北海道帝國大學名譽教授正三
位勲二等農學博士宮部金吾氏
は1月9日付にて帝國學士院規程第二條により特旨を
以て帝國學士會員被仰付た。宮部博士は廣井勇博士
と札幌學校の同窓同僚の親友にして植物學者として
國寶の權威者である。目下は札幌市の北六條西丁目



(3) 奈良公園見物中、人力車上のり博士
(昨年11月23日)

に孤觸の讀書生活を送りつゝあるが、老來益々健康
にて後進の爲めには常に良き先輩として慕はれつゝ
ある。

『**岡部博士
民間へ**』 内務省技師より東京市役所橋梁課
長に轉じて間もなかつた工學博士
岡部三郎氏は昨年末東京市役所を圓滿辭職して尼崎
築港株式會社に入社し同社の幹部として技術的手腕
を振ふ事になつた、同時に兵庫縣西宮市外阪急線夙
川北蓮毛847に轉居の由。

『**濱田稔氏
工學博士**』 東京帝國大學工學部建築科出身の
青年教授濱田稔氏は先年來佐野利
器博士の指導の下に鐵筋混凝土構造の研究に精進し
つゝありしが1月8日付にて工學博士の學位を授與せ
らるゝ事となつた。

藤田周造氏歸朝 昨年3月來歐米各國へ出張工事
視察中なりし同氏は今般無事歸朝して従前通り東京
府土木部に勤務の由。

瀧淵實烈氏歸朝 昭和2年4月來歐米の工事研究
中なりし同氏は昨年12月17日無事歸朝して従前通り鐵
道省建設局に勤務の由。

川口利雄氏歸朝 昭和2年4月來歐米に出張し工
事研究中なりし同氏は昨年末無事歸朝して従前通り鐵
道省東京第一改良事務所に勤務の由。

江上夫人逝去 曾て工事畫報誌上に外國工事關係
の記事を執筆して本誌に關係深かりし米國工學士江
上惠次郎氏の夫人ヒサコ氏は兼て入院療養中の處1
月17日藥石效なく群馬縣澁川町にて遂に逝去された